

震災発生時、妻と2歳の息子は妻の実家についており、震災後顔を合わせたのは、翌日になってからでした。発生から数時間は安否の確認ができず、経験したことがないほど不安な気持ちでした。ようやく携帯のメールで無事だと知ったときには、うれしさと自然と涙があふれてきたのを覚えていきます。

翌日以降、3人で自宅で過ごすことができましたが、ライフラインは復旧しないままでした。自宅にあった手回しでも充電できるラジオ付き懐中電灯を使って、情報を収集したり、暗さをしのいでいました。太陽光での充電式でもなく、乾電池の備蓄も

あまりありませんでしたので、毎日手回しによる充電が必要でした。夕方薄暗くなる、石油ストーブの明るさを利用して、懐中電灯を手回しで充電し始めました。あまり性能の良いものではなかったため、手回しのレバーがスムーズには動かず、力を込めて回していました。回す音も部屋の中で人の声を遮るほどで、「ぎゅるるるぎゅるるる」という音でした。それを続けると、「ぎゅるるるぎゅるるる、ぎゅるるるぎゅるるる、ぎゅるるるぎゅるるる…」と鳴り響きました。

震災から数日経ったある日、私がいつものようにギュッギュッと充電のレバー

を回していると、2歳の息子がその音にリズムをとって踊りだしました。「ぎゅるるる」の響きがおもしろく感じたようで、満面の笑みで、楽しそうに飛び跳ねるように体を動かしていました。息子には、「るるる」と聞こえていたようで、以来、手回しの懐中電灯の充電をすることを、我が家では「るるるるる」と言うようになりました。震災直後、先行きも分からず、暗い気分でも過ごしていた日々において、息子の踊りは私たちをとっても朗らかな気持ちにさせてくれました。子どもの無邪気さと明るさを目の当たりにしたことで、この逆境を乗り越え、この子をしっかりと育てていくという未来に向けての原動力が得られました。子どもが大人にエネルギーを与えてくれるのを実感した出来事でした。

